



説教要旨 「^{おきなご}幼児たちの神の国」

ルカによる福音書18章15～17節

イエス様に触れていただくために、人々が乳飲み子までも連れてきました。それは子どもたちの健やかな成長を願ってのことです。しかしそれを見た弟子たちはこの親たちを叱りました。忙しくて大変なイエス様をこれ以上煩わせてはならない、ということだったかもしれません。ところがイエス様は「子供たちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」（16節）と言われるのです。

もし乳飲み子が、その親に育児放棄され、十分な食事を与えなかったりしたならば、自力ではどうしようもない。まずその命は助かりません。乳飲み子の命運は、親の愛にかかっています。同様に私たちも、神様に“もうお前など必要ない”と見捨てられたならば、もはや自力ではどうしようもないのです。私たちの命運は神様の愛にかかっているのです。

乳飲み子がそうであるように、私たちは神様の恵みや祝福を弁え、自覚することができていない者です。また、イエス様の手助けをするどころか、むしろ迷惑をかけてしまうような罪深い者です。弟子たちがこの親たちを叱ったように、おまえなど迷惑だ、と見捨てられても当然なのです。しかしイエス様は、そのように迷惑ばかりかける私たちなのに、それでも見捨てずに招いて下さるのです。

直前の箇所（18:9~14）で語られたファリサイ派の人と徴税人のたとえにおいて、「神様、罪人のわたしをおゆるしてください」（13節）と祈ったあの徴税人にこそ、「子供のように神の国を受け入れる人」（17節）の姿が示されています。彼は、人々の目から見たらとうてい赦されようがない罪をかかえていながら、神様に赦しを願い求めました。それは乳飲み子が母乳をもとめて、周囲の目など全く気にせず大声泣きわめいているような姿です。

神の国、神の支配とは、神の愛による支配です。その神の愛が、イエス・キリストによって、その十字架の苦しみと死とによって私たちに示してくださったのです。この神の愛にすがりつくことにこそ、私たちの救いがあるのです。